

令和8年熊本地震、ならびに令和8年8月千葉豪雨より、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
皆様の安全と被災地域の日も早い復旧、復興を心よりお祈り申し上げます。

らふれた

2026年
9月号
vol.110

発行：株式会社ラプロス
発行人：代表取締役 樋口 繁樹
〒810-0001
福岡市中央区天神1丁目12番1号
日之出福岡ビル5階
TEL 092-737-2211
FAX 092-737-2212
弊社HPは下記よりご覧頂けます。
<http://www.lapros.co.jp/>
編集担当：大下



今は昔、 夏休みの過ごし方



昨年の夏もひどい暑さでしたが、今年の夏は7月の初めから梅雨も明け35度を超える日も多く、昨年にも増して酷暑ですね。それにつけても今年の夏休みの子供たちは、外で遊ぶのにも限界がありなかなかやりたいことがやれない40日間だったのではないかと想像します。

僕の子供の頃は、30度超えれば暑い夏、毎日天気と気温、日記をつけていたのですが、朝6時に起きて近所にラジオ体操、その足で兄と近くの雑木林へクワガタを取りに行き、収穫は帽子の中に入れて被って帰っていました。髪の毛の間に入り込んで引っ張られて痛いのを我慢しながら、家に帰ればクワガタの棲み処は穴をあけた大きなかねの箱（もち吉の箱みたいなやつ）に新しい仲間を入れます。カブトムシは大きなクワガタに噛まれて背中やおしりを怪我することがあるので、別の棲み処を作っていましたね。昆虫用ゼリーなどなかった時代で、砂糖水で濡らした綿やらスイカ、瓜やらを餌にしていました。

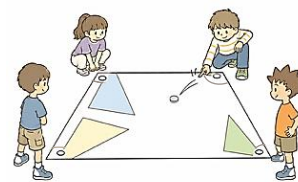
朝ご飯を食べて涼しいうちに宿題を片付け、昼ごはんの後1時間くらい空けて、友達と裏の川に集まり川遊び、時には魚釣り。くたびれたところで帰って高校野球を観ながら昼寝。そしてキャッチボールとか、三角ベースとか、陣取り合戦とか。

三角ベースなんて今は死語かもしれないませんが4～6人で遊ぶ2塁ベースのないハンドベースボールです。一塁手も三塁手もないので、直接走者にボールをぶつけて



アウトを取ります。ですから当時<こんにやくボール>と言っていましたが薄いゴムボールで遊んでいました。

陣取り合戦は親指と人差し指で土に描いた4分の1の円を陣地としてそれぞれ持ち（指の長いものが有利です）、小石を武器に三回指で弾いて陣地内に石が戻ってこれれば陣地が増える、戻ってこれなければそのまま陣地は増えない、という遊びです。陣地が拡大できて、相手の陣地に入り自陣に戻って来れば相手の陣地を吸収できる、最後に一番大きな陣地にできたものが勝ち、というやつです。欲張って陣地を早く増やそうと思えば距離が行き過ぎて小さい陣地に戻ってこれないので、コツコツと堅実に増やさなければなりません。土の庭でしか遊べないので、小学校の運動場に行くこともありましたね。夏は8時近くまで明るいので気が付いたら7時・・・なんてこともあったような。



こんな遊びも今は知る人ぞ知る、知らない人がほとんどかも。だって広い土の庭なんてそもそも見当たりませんからね。あるのは熱いアスファルトとその照り返し・・・。時代は大きく進化しており、もうロボットがそこら辺にいる時代（僕たちは「鉄腕アトム」を観ていた時代）になってきました。さらに10年後子供はどんな夏休みを過ごすのでしょうか？おもちゃのロボット同士を戦わせるとか、AI搭載で持ち主に必ず負けてくれるアンドロイドとプロレスをするとか。孫の世代の行く末をついつい案じてしまう暑い夏の日でした。



代表取締役 樋口 繁樹

『倒壊しない』 という意味



文：田中

2026年7月28日、「令和8年熊本地震」が発生しました。その2日後に筆を執っており、今まさに多くの報道がなされています。

2016年に発生した熊本地震では、益城町にある私の祖父母の家も被災しました。その家は、1981年（昭和56年）6月1日以降に建築確認を受けた建物に適用される「新耐震基準」に基づいて建てられた1980年代の住宅でした。大きな揺れに見舞われましたが、倒壊することなく、家族の命を守ってくれました。

しかし、被害がなかったわけではありません。外観から見ると大きな問題がないように見えても、敷地内では地盤の隆起が発生し、建物の中に入ると傾きが感じられました。壁のひび割れや建物の損傷、家具の転倒など、生活への影響も大きなものでした。結果として、その家で暮らし続けることは難しくなり、最終的には建て替えることになりました。



この経験を通じて、住宅の耐震について改めて考える機会となりました。住宅の地震に対する基本的な考え方は、大地震が発生した際に建物を「倒壊・崩壊させない」ことで、人命を守ることです。震度7クラスの極めて稀に発生する大地震に対しても、建物が一瞬で崩れ落ちることを防ぎ、避難や救助のための時間を確保すること。それが「倒壊しない」ということの大きな意味です。つまり、倒壊しないとは、建物が無傷で残るという意味ではありません。「倒壊しない」ことは、人が逃げるため、助けを待つため、命を守るための時間をつくることなのです。耐震等級の高い住宅や免震構造の建物は、その可能性を高めるための重要な技術です。



しかし、それらは「地震後も建物が必ずそのまま使える」ということを意味するものではありません。倒壊を免れても、柱や梁などの構造部分に大きな損傷や変形が生じ、その後安全に住み続けることが難しくなる場合もあります。私の祖父母の家は、新耐震基準の住宅として本来求められている役割を果たし、家族の命を守ってくれました。



この経験から感じたのは、住宅に求められる

性能を正しく理解することの大切さです。耐震性能は高いほど安心感につながります。しかし、住宅の耐震設計が目指しているのは、まず人命を守ることです。それは耐震等級1で基準を満たします。その目的を踏まえた上で、住まいには快適性や間取り、将来のライフスタイル、そして予算とのバランスを考え、そのご家族にとって最適な住まいを選ぶことが大切だと考えています。地震を防ぐことはできません。しかし、被害を小さくする備えはできます。「倒壊しない」ということは、建物を守るためだけではなく、そこに住む人の命を守り、次の行動につなげるための大切な時間をつくることです。



住宅に携わる私たちは、必要な性能と暮らしのバランスを大切にし、過度な性能競争ではなく、本当に暮らす人のためになる住まいとは何かを考えながら、これからも家づくりに向き合っていきたいと思います。



最後になりますが、このたびの熊本県で発生した地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧・復興を、そして安心して暮らせる日常が戻ることをお祈り申し上げます。

なんだかんだ、 この仕事が好きです

～「らぶれたー」ができるまで～

文：大下

皆さまに隔月でお届けしている「らぶれたー（創刊時：ラブレター）」は、ラプロスとお客



様・お取引先様とをつなぐコミュニケーションツールとして、2008年に誕生しました。創刊から約17年9カ月、本号で第110号を迎えます。歴代の担当者から引き継がれ、ここ2年ほどは私が一人で編集を担当しています。

人文学部卒、不動産業界とはほとんど接点のない人生を歩んできた私にとって、

入社当初、ニュースレターの編集は唯一(?) それまでの経験を活かせる仕事のように思えました。もちろん大変なこともあります。不思議と苦には感じず、むしろ楽しみながら取り組んでいます。

そこで今回は、「らぶれたー」がどのように出来上がるのか、編集長（部員1名）としてのちょっとしたこだわりや裏側をご紹介します。

最初に行うのは、テーマ決めと原稿当番のスケジュール作成です。担当が偏らないよう、2年ほ

ど先までの予定をざっくり組んでおきます。読者の皆さまに「また同じ内容だな」と感じられないよう、内容や切り口を少しずつ変えながら、親しみやすさと少し真面目な話題のバランスにも気を配っています。ただ、時々ネタ切れになることも……。 「こんな話を読んでみたい！」というご要望がありましたら、ぜひお聞かせください。

原稿の締め切りは、お届けする約1カ月前です。本号は9月号なので、締め切りは7月下旬。季節感を意識しながら原稿を書いています。近年は暑さが長引くため、9月号なのに秋らしさを出しすぎると少し気が早いような…。

原稿が届いたら、一番に読めるのが編集者の特権です。誤字脱字はもちろん、伝わりにくい表現がないか、一つひとつ確認していきます。ちなみに、私自身が原稿当番のときは、他の原稿を読んだ後に執筆することがほとんどです。全体の文字数やバランスを調整しやすいからなのですが、締め切りをあまり気にせず書けるのも編集者の特権その2ですね。

チェックを終えたら、原稿に合わせて写真やイラストを配置していき、完成です。実はこのイラスト選びがなかなか難しく、「センスが問われるなあ」と毎回感じています。個人的なお気に入り、2024年7月号（第97号）の見出しで使った、地球温暖化を表現したイラストです。



編集集中、参考のために過去の「らぶれたー」を読み返すこともあります。掃除中にアルバムを見つけて思い出に浸ってしまうような……そんなあるある現象が起こりがちなので、ほぼほぼにしています。



ところで、最近ではAIを活用することが当たり前になってきましたが、「らぶれたー」の制作でも取り入れています。一番助かっているのは、誤字脱字のチェックです。ほんの数秒で確認できるため、大幅な時間短縮につながっています。また、どうしてもイメージに合うイラストが見つからないときに、AIで生成することもあります。一方で「らぶれたー」そのものも、AIを使えばもっと簡単に、カッコよく作れる時代なのかもしれません。しかし「らぶれたー」という名前は、日頃の感謝を伝えたいという想いを込め、「ラプロスからのラブレター」をもじって名付けられたもの。だからこそ、効率化できるところにはAIの力を借りながらも、この紙面に込める“想い”だけは大切に受け継いでいきたいと思っています。

これからも、どこか手作りの温かさが感じられる「らぶれたー」をお届けしてまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



先輩方とワントンメンを食べに行きました。満腹のはずなのに、これがとてもおいしくて、気づけば完食していました。



2日目はエスコンフィールドへいきました。スタジアムツアーがあったので、参加してみることにしました。ツアーはベーシックとプレミアムの2種類。プレミアムは普段関係者しか立ち入れないチームロッカーやミーティングルーム、ブルペンなどにも入れるとのことで、どうせ行くなるとプレミアムを選びました。選手が実際に使っているロッカールームは、ひとつひとつの造りが本格的で、思わず「これがプロの世界か」と見入ってしまいました。ちなみに新庄監督の監督室には、チュッパチャプスが常に置いてあるそうです。こういう話が聞けるのもツアーならではの思い出だと思います。普段は絶対に入れない場所に立っていると思うと、それだけで特別な気分になります。エスコンフィールドはメジャーリーグの球場を参考

に造られているようで、スタンドから見える景色や設備の大きさにも、そのスケール感がよく表れていました。他の球場とはまた違った雰囲気があり、最新の設備も整っていて、ただ野球を見に行くだけの場所ではないなと感じました。ツアーに参加しなくてもスタンド席などは無料で見学できるので、北海道に行かれる際はぜひ立ち寄ってみてください。



心残りは、知床など札幌市内から離れた場所に足を運べなかったことです。今回足を運べたのは北海道のほんの一部だったと感じました。プライベートで行く機会があれば、行けなかった場所にも訪れてみたいです。



しんぺい日記

ー2026年社員研修レポートー

文：今任

6月24日から26日にかけて、研修旅行で北海道へ行ってきました。私自身、2年ぶりの北海道でした。

初日の夕方はサッポロビール園へ行き、ジンギスカンをいただきましたが、臭みもなく、とてもおいしかったです。お酒も入って、普段はなかなかできないくだけた話もでき、初日から良い雰囲気で始まり



ました。夜ご飯の後、お腹いっぱいだったにもかかわらず、

ご紹介キャンペーン

住宅・土地のご購入を検討されているご家族様・ご友人様をご紹介ください



5 商品券
万円分



ご紹介者さまにプレゼント！

※ご紹介者様からの紹介でご成約に至った場合

家や土地を売りたい方もぜひご相談下さい！

「プロスペリテ」
HPはこちら



「プロスペリテ」
Instagramはこちら



編・集・後・記

文：大下

先日、天神ビジネスセンターⅡが開業しました。学生時代によくジュンク堂をウロウロしていたので、再開するのが待ち遠しかったです。飲食店も色々入っているようで、行くのが楽しみです。

ところで、今回「らぶれたー」の編集について記事を書いたついでに、過去の編集後記をいくつか読み返してみました。

季節の話、会社の話、実体験など色々載せていましたが、気のせいかな虫の話が多いような？カメムシから始まり、コオロギ、セミ、コバエ…。季節の話をしようとなると、なぜか虫の話題になりやすいようです。苦手な方には申し訳ございません。ちなみに今の時期は、蚊と日々戦っています。O型が刺されやすいと聞きますが、どうやら本当かも。

らぶれたーのご意見・ご感想をお聞かせください！

ラプロスの広報誌「らぶれたー」は2008年12月に創刊し、今号で110号となります。ここまで発行を続けることができたのも、温かく見守っていただいた皆さまのおかげです。皆さまのご意見ご感想をぜひお聞かせください！

住所：福岡市中央区天神1-12-1-5F
FAX：092-737-2212
MAIL：info@lapros.co.jp
「らぶれた一係」まで